



～職員研修の巻～

自治体国際化のスペシャリスト、育成します

(一財)自治体国際化協会総務部企画調査課

地域の国際化を推進する共同組織、クレア。ここには日々国際化に関する課題やニーズが持ち込まれ、その解決のために職員が精力的に働いています。クレアでは、こうした環境に自治体職員を派遣いただき、国際化に関する多様な業務を体験する機会を提供し、職員の能力の着実な向上を図っています。自治体国際化を担う次代のスペシャリストをしっかりと育成しています。

国際化のスペシャリストへ

スペシャリスト育成はOJTを基本としていますが、クレアではその準備としての研修を充実させているのが特長です。研修は、「一般部門研修」と「業務部門研修」に分かれ、職員はそれぞれ国際化を担う上で必要となるスキルの習得を目指します。

「一般部門研修」では、コミュニケーション能力、調査企画能力の向上を図っていくことを目的に、「業務部門研修」では、経済交流、実践的な業務遂行能力や国際業務を遂行する上での技術の向上を目的に、さまざまな研修を行っています。

これら研修の実施後は、職員へアンケートをとり、研修の有効性や、継続の有無を毎回検討しています。

国際課職員必見！プロトコール研修

アンケートで毎回高評価を得る研修の一つに「プロトコール研修」があります。

「エチケットは、個人間の儀礼作法であるが、プロトコールとは、国家間の儀礼作法といえる」（「エチケットとプロトコール」1964年友田二郎著）。国家間と聞くと、自治体交流とちょっとかけ離れているように思えますが、外国との交流である点で同じであり、文化や習慣が違う者同士が、気持ちよく相対するための基本ルールがプロトコールです。

海外からの表敬訪問への対応や、こちらが表敬訪問したときなど、国際業務を遂行するには必要不可欠な知識です。みなさんもこれまで、表敬受け入れの際に、「国旗はどう置けばいいんだろう？」と焦ってウェブで検索したり、本を購入したことがあるのではないのでしょうか。先日、クレアでは、**外務省大臣官房儀典官室の古谷徳郎儀典総括官**を講師に迎え「国際プロトコール研修」を実施しました。

「クレアではこんな研修が受けられるのか」という参考に、内部の職員しか受けられない研修の中身をちょっとだけですが、特別にご紹介します。

本部における研修項目（2013年度）

	研修項目	研修内容
一般部門研修	顧客対応向上研修	カスタマーファーストを意識づけるため、基本的なビジネスマナー、顧客目線でのサービスとは何かを学ぶ。
	国際関係概論	現代の国際政治・経済の動きなどを理解し、事象を俯瞰的な視点で捉え国際戦略を策定する上での素養を育成する。
業務部門研修	随行・接遇研修	国際業務の中で重要視される随行業務について、心構えから遂行する上で必要となる情報や対応方法などについて身につける。
	観光・物産マインド育成研修	地方自治体の海外経済活動を効果的に支援するため、展示会や海外経済セミナーなどへ実際に参加し、物産・観光マインドを育成する。
	英語プレゼン研修	英語によるプレゼンテーション研修を実施することにより、効果的な事前準備の仕方やコツ、質疑応答への対応の仕方などを習得する。
	広報研修	情報発信を効果的に行うための表現力を身につけるため、雑誌記者により「伝え方」について考察し、また、ホームページでの表現方法、写真の撮り方についても学ぶ。

クレア プロトコール講座

講師：外務省大臣官房儀典官室儀典総括官 古谷徳郎

プロトコールの基本

プロトコールの基本は、国の大小に関係なくすべて平等に扱うこと、誰もが納得するルールに従うこと、相互理解・異文化理解につとめること、これら3つにあります。例えば、日本に駐在する外国大使の上座、下座は日本への着任順で決まります。また、右側が上位であるとされています。さらに、食事やアルコール飲料については、相手側の宗教的制約や個人的嗜好（ベジタリアン、アレルギーなど）に配慮することが求められます。

国旗の掲揚

国旗は国の象徴であり、自国および相手国の国旗には敬意を払わなければなりません。外国国旗を侮辱目的で損壊、除去などした場合には、刑法で懲役または罰金刑が定められているほどです。そんな国旗ですので、取り扱いには細心の注意が必要になります。

例えば、外国地方政府からの表敬を受け入れるとき、よく卓上や入り口玄関に、両国の国旗を掲揚すると思います。この場合の簡単なルールをご紹介します。

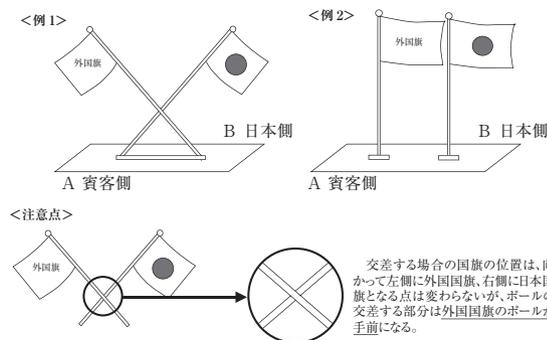
○雨の日、日没後は掲揚しない

相手方の国旗には最大限の敬意を払わなければなりません。ですので、雨に濡れてしまったり、日が沈んで国旗がはっきり見えないような状況にしておくのは不適切です。ただし、雨といても小雨だったり、日没後でもライトアップしてあれば掲揚してもOK。要は敬意を払っているかどうかポイントです。

○右に外国国旗、左に日本国旗

日本では、外国に敬意を表す意味から、右（向かって左）側に外国国旗を、左（向かって右）側に日本国旗を掲揚するのがルールです。自国旗優先主義を貫いている米国、フィリピンなど国によっては逆にするところもありますので、自分たちが表敬訪問する際に勘違いなされないように。また、卓上旗を交差して置く場合は、ポール^{つまず}の交差する部分は手前が外国国旗となります。

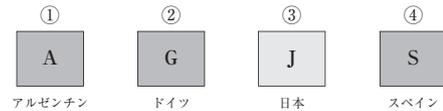
卓上旗（日本がホスト国の場合）



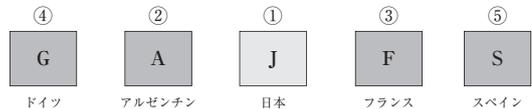
○3か国以上の場合は、アルファベット順で

国際会議を開催する場合や、複数国の表敬訪問を同時に受け入れた場合は、国連方式のアルファベット順に掲揚することが良いと思います。この場合、国連方式のアルファベット順に従い、向かって左から順に掲揚します。国の数が奇数になる場合は、日本国旗を中央に配置し、中央から向かって左側から左右交互に掲揚することもできます。

○国旗を国連方式によるアルファベット順に従い、向って左から右へ順に掲揚する。



○国の数が奇数の場合は、日本国旗を中央に配置し、外国国旗を国連方式による国名アルファベット順に中央より向って左側から左右交互に掲揚する。



プロトコールは入り口、でも入り口で躓かないように

プロトコールはあくまでも入り口であり、その先の中身が大切であることは言うまでもありません。ただ、中身に行く前に躓いてしまうと、雰囲気が悪くなるばかりか、中身にたどり着けなくなることにもなりかねません。そのためには、相手方の国名や敬称・名前、会議や食事の際の席次・テーブルプランなど、プロトコールとして気をつけ、覚えておかなければならないことは多数あります。

ただ、一番大切なことは、相手に敬意を払うこと、思いやり、気遣いの心で対応することです。会議や食事の際の席次は、長テーブルの場合、主賓を相手側中央に配置し、上位の方から向かって主賓の左側（相手側から見て主賓の右側）から右左交互とするのが原則ですが、行事の性格や出席者の年齢、肩書、出席者同士の相性などに合わせて変えることがほとんどです。原則はあくまでも原則であり、敬意を払い、思いやり、気遣いの心で対応することが最も大切です。

クレアの職員研修いかがでしょうか。実際の研修では、ここでは書けないようなこぼれ話も……。今すぐ役立つ、今すぐ聞きたい知識満載の研修が盛りだくさんです。これを受講するためには!!自治体からの積極的な派遣をお待ちしております!!